

【第10回全日本U-18フットサル選手権】

研修期間：8月3日(木)～8月5日(土)

開催地：静岡県/浜松アリーナ

参加者

インストラクター：延本 泰一氏、櫻田 雅裕氏、坪坂 智光氏、森 文敬氏、池田 浩之氏、小崎 知広氏

研修審判員：水上 好清氏(北海道)、北島 和郁氏(東北)、小谷 晏佑武氏(関東)、増田 圭佑氏(東海)、富士本 和杜氏(関西)、泉 一樹氏(四国)、稗田 知幸氏(九州)、古河崎 大介(中国)



《7月22日(土)事前研修会@オンライン》

① はじめに ②講義 ③大会要項の確認

① はじめに

・研修審判員の自己紹介

② 講義

・試合に備えて(暑熱順化と水分補給、トレーニングプランについて)

- ・映像研修「予測とポジショニングの重要性」「チームワーク」
- ・今大会の研修テーマ「次の争点を見るために、今のポジショニングは better なのか」、「チームワークを発揮するために私になにを求められているのか」

③ 大会要項の確認

《8月3日(木)：大会1日目》

① マッチ No.4 (ピッチ B)10：45 キックオフ

名古屋オーシャンズ U-18 vs エンフレンテ熊本フットサル U-18

5：1(3：1)(2：0)

主審：南 秋一氏 第2審判：古河崎 大介

第3審判：芝原 潔氏 TK：畑 至音氏

インストラクター：森 文敬氏

【振り返り】

良かった点

- ・キックインでボールが静止できていなかったのを試合の早い段階で厳格に対応できた。
- ・PA前でシュートチャンスだったが意図的にボールを手で扱ったとして自信を持ってファウルにした。

課題点

- ・ナーバスになっている選手への対応(落ち着かせる)
- ・Rと2Rの中間に争点ができる場合は相手に委ねるのでなく自分で見る意識をもつ。
- ・底辺でボールを回した後、長いパスが出たときに、そこに留まってしまい次の争点と距離ができるので足を止めずに動き出す。
→何も起きそうになれば見切りをつけ争点との距離を縮める。

② マッチ No.10(ピッチ B)16：00 キックオフ

メッセ天下茶屋 FC U-18 vs ヴィエント U-18

5：1(3：0)(2：1)

主審：古河崎 大介 第2審判：南 秋一氏

第3審判：泉 一樹 TK：田中 浩和氏

インストラクター：池田 浩之氏

【振り返り】

良かった点

- ・プレー後のアフタープレーに対して目が残せていたこと。

課題点

- ・手の不正使用(後方から押す行為)

- 声掛けでは収まらないのであれば、どこかでファウルとして、正当なプレーに導いていく。
- ・ポジショニングでは、争点へ近寄る意識は良かったが、その後のリスクへの意識が少なく、自身の目の前を争点が通過してしまうシーンがあった。
 - 突っ込んだ後の意識やステップワークをうまく使い、後追いにならないようにする。
- ・カウンターでの GK がペナルティエリア外で手を用いたシーンでの審判団の協力
 - ハンドの反則であり、得点の阻止で退場にすることが正しかった。審判団が見にくくなるウィークポイントを整理して、誰がどこを監視することが Better なのか考える。

《8月4日(金)：大会2日目》

③ マッチ No.19(ピッチ A)14：15 キックオフ

フウガドールすみだファルコンズ vs エンフレンテ熊本フットサル U-18

7：0(4：0)(3：0)

主審：古河崎 大介 第2審判：田中 浩和氏

第3審判：西田 純大氏 TK：増田 亜希氏

インストラクター：坪坂 智光氏

【振り返り】

良かった点

- ・2Rや副審の助言を受けながら、正しい判定ができた。
- ・心の動揺が表情に現れず、淡々とした態度で対応できた。

課題点

- ・気持ちの切り替えと心に余裕を持つ。
 - 起きてしまったことはそれとして、次への引き出しとし、同じことを繰り返さないようにする。
- ・主審としてイニシアティブをとる。
 - 違反に気づいたときに自分がどう対応したいのか、それによって取るべき対応を変える必要がある。対応の仕方を整理しておく。

④ マッチ No.24(ピッチ B)17：45 キックオフ

ペスカドーラ町田 U-18 vs 北照高校

0：3(0：0)(0：3)

主審：泉 一樹氏 第2審判：増田 亜希氏

第3審判：古河崎 大介 TK：堀澄 澄人氏

インストラクター：櫻田 雅裕氏

【振り返り】

- ・主審、第2審判の視線を把握して、全体を視野に入れて援助できるよう意識する。

《8月5日(土)：大会3日目》

- ⑤ マッチ No.26(ピッチ B)10:00 キックオフ
遊学館高校 vs ペスカドーラ町田 U-18
2:5(0:4)(2:5)
主審：熊谷 一也 第2審判：古河崎 大介
第3審判：水上 好清氏 TK：富士本 和杜氏
インストラクター：池田 浩之氏

【振り返り】

良かった点

- ・アドバンテージを積極的に適用した。
→的確な適用だったので自信をもって対応する。
- ・ゴール前の得点かどうかの際どいシーンを良いポジショニングで監視できた。

課題点

- ・警告者の間違い。
→アドバンテージをかけた場面で警告になることを意識したのなら警告者の番号を叫ぶ、選手の特徴(外見等)、俯瞰的な競技者の位置を把握し、間違いを防ぐ。
- ・全体的な視野を意識しすぎて争点から遠くなったり、予測が遅れる場面があった。
→自分なりの適切な距離はどのくらいなのか、争点へ寄り、その後どう動くのかを考えながら良い距離を見つける。

《8月26日(土)：事後研修@オンライン》

- ① はじめに ②研修テーマに沿った振り返り

- ① はじめに

・大会を振り返っての感想

- ② 研修テーマに沿った振り返り

・大会期間中の映像を使って、研修のテーマに沿って良かった点、改善点を研修審判員で共有

《大会を振り返って》

今大会の研修テーマである「次の争点を見るために、今のポジショニングは better なのか」、「チームワークを発揮するために私になにを求められているのか」について、事前研修で学んだことをふまえ、大会前から自分なりに考えて大会に臨みました。大会期間を通して「今のポジショニングが better なのか」を意識し、普段よりも争点に寄ってみたり、離れて俯瞰で見たり、いろいろなチャレンジができました。

その中でチャレンジして成功した場面もあれば、予測が外れて選手に追い抜かれる場面があったり、失敗もありましたが、これからもいろいろ試しながら自分なりの better なポジショニングを見つけたいと思います。

チームワークに関しては、主審・第2審判同士のアイコンタクトやタッチジャッジ、判定のフォローをすることや第3審判・TKの持っている情報を主審にどう伝えるかどんな情報を必要としているのかを意識しました。試合の中で4人で協力して正しい対応で再開できたこともあれば、視野の分担やポジショニングによって正しい判定ができなかったこともありました。

今大会で学んだことを引き続き取り組んでいくこと、また、地域の審判員に伝えていくことで中国地域の審判員の成長に繋がると思います。

最後になりますが、本大会へ推薦していただきありがとうございました。他地域の審判員と活動でき、いい刺激になりました。また全国大会へ推薦していただけるよう精進していきます。これからも引き続きご指導よろしく願いいたします。